

一般選抜・後期《英語》

【1】

【出題意図】

科学的研究を扱った英文を読み、指示語が指す内容の把握、本文からの情報抽出と整理、対比関係や因果関係を整理して簡潔にまとめる力など、多角的な読解力を評価する。加えて、本文内容を逐語訳に頼らず、英文の要点を正確に捉えた上で、求められる条件に沿って内容を適切に言い換え・要約し、再構成する力を測る。科学的文章を読み解くために必要な総合的な言語運用能力と論理的思考力を評価する。

【解答例】

解答例

[1] これまで苦痛の叫びに焦点が当たり、喜びや楽しさを表す叫びはほとんど扱われてこなかったこと。

解答

[2] d

解答例

[3] 第4段落前半の内容を指定語数内で説明していること。

叫び声を引き起こす典型的な感情の範囲を特定しながら、自分達で叫び声を録音した。その際、様々な状況のシナリオを考え、その叫び声を再現しようとした。最終的に、痛み、怒り、恐怖、喜び、情熱、悲しみという6つの叫び声のカテゴリーを決定した。(115字)

叫び声を引き起こす典型的な感情の範囲を特定しながら、自分達で叫び声を録音した。様々な状況のシナリオを考えてそれを再現しようとし、最終的に痛み、怒り、恐怖、喜び、情熱、悲しみという6種類の叫び声を決定した。(102字)

解答例

[4] 実験参加者に実際に痛みや恐怖を与えて悲鳴をあげさせるのは倫理的に問題があるから

[5] 解答 (a) a

解答例 (b)

以下の内容に言及して指定語数以内で説明していること。

- ・従来の理解・考え方と実験結果との対比
- ・喜びの叫び声が最も認識されやすいという実験結果

喜びの叫び声の認識が優勢であったことは、すぐに危険を伝える手段として悲鳴は進化してきたという考えと相反したこと。(55)

従来、叫び声は危険を伝達する機能として進化したと考えられていたことに反し、実験結果は人間が最も正確に素早く認識する叫び声は、喜びによるものであることを示した。(79)

[6] d

[7] c

【2】

【出題意図】

英文を読み、文脈に応じた適切な語彙・文法・語法の知識、指示語や代名詞の参照関係の把握、段落ごとの要点理解など、英文読解に必要な基礎力を測る。さらに英問英答形式で、本文から根拠を特定し必要情報を正確に抽出・判断する力を問うことで、英語で理解・処理する総合的な言語運用能力を評価する。

【解答例】

解答

1. a, d 2. C 3. a 4. b 5. d 6. b

【3】

【出題意図】

日常会話や実用的な文章を扱い、文脈から適切な表現や語句を選択する力を測る。会話では、状況の展開や登場人物の意図を読み取り、自然な応答を判断する力を問う。ポスターでは、文脈に応じた適切な語彙・表現の補充、段落の主題把握、全体構成の理解力を評価する。実践的な英語運用能力とコミュニケーション能力を総合的に測る。

【解答例】

解答

I. 1. (A)d (B)b 2. (C)a (D)b

II. 1. (1)a (2)f (3)h (4)e 2. b 3. d